

2010 年度未踏 IT 人材発掘・育成事業 成果評価報告書(プロジェクト全体について)

プロジェクトマネージャー：夏野 剛 PM

(慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特別招聘教授)

1. プロジェクト全体の概要

様々な領域でパラダイムシフトが要求されている日本の状況において、これまでの既成概念を壊すようなインパクトを与えられる可能性を秘めた独創的なプロジェクトを発掘したいと考えている。さらに、日本の最大の課題である「どうやって優秀な人間をさらに伸ばしていくか」に対して、世界で通用するソフトウェア、世界で例のないビジネスモデル、驚くような利便性をもたらしてくれる技術を求めている。

プロジェクト採択においては、「現実のアプリケーションあるいはソリューションを組み上げたときの価値」に注目し、その点において有望なプロジェクトを選択できた。プロジェクト進捗レビューのポイントとしては成果物主体で、特に、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスのPMが担当する授業「ネットワーク産業論」で行ったプレゼンテーション、および最終の成果報告会において、具体的に「動くもの／見せるもの」を示してもらうよう指導した。期間中、採択クリエイター同に会するミーティングを毎月行い、互いの成果物に対して前向きなアドバイスをを行う雰囲気が出た。最終的に、2 プロジェクトそれぞれ計画どおりの成果を達成できた。どのプロジェクトも、既存の該当ビジネス領域に対して、インパクトを与える期待が大いに持てるので、いかに早く実用化できるか、今後も企業との連携などの面で支援を継続したい。

2. プロジェクト採択時の評価(全体)

これまでの既成概念を壊すようなインパクトを与えられる可能性を秘めた独創的なプロジェクトを発掘したいと考えた。さらに、日本の最大の課題である「どうやって優秀な人間をさらに伸ばしていくか」に対して、世界で通用するソフトウェア、世界で例のないビジネスモデル、驚くような利便性をもたらしてくれる技術を求めている。プロジェクト採択においては、「現実のアプリケーションあるいはソリューションを組み上げたときの価値」に注目し、その点において有望な、以下の2プロジェクトを採択できた。

1. 後藤 正樹 氏「デジタル教科書用後付 LMS の開発」

現在、非常に注目されている電子教科書については、概念としての議論は進んでいるものの、具体的なソリューションを学ぶ側、教える側の双方の立場から実現しているものがない。

本プロジェクトは教育者であるクリエイター自身の信念と経験からデジタル教科書を実現しようとする試みであり、非常に具体的かつ大きな社会的意義をもつと判断し採択した。

2. 小池 宏幸 氏「演奏解釈の共有・蓄積プラットフォームの開発」

音楽演奏の世界で楽譜では共有・伝承できなかった解釈データを、IT 技術によって共有できるようにしようという野心的な試みであり、クリエイター自身が演奏家であるという立場からの具体的なソリューションを提供しようとしている。これが実現できると、紙ベースの譜面に対して、デジタル譜面の優位性が大きく増すばかりか、自動演奏の世界の大きな進化につながるものであり、未踏採択にふさわしいと判断した。

3. プロジェクト終了時の評価

両プロジェクトともにプログラミングだけでなく、実使用レベルまで制度を高められたことは大いに評価に値する。これからのシステムはまさに Google が証明したように、できるだけ早期にβ版として実使用に供し、そのフィードバックを受けることでシステムの完成度を上げていくことが重要になっている。通常未踏の場合、その性格上、期間中にそこまでの完成度に至らないプロジェクトも多いが、今回の2件は双方ともに完成度が高かったことはPMとしても達成感がある。